

# 厚生福祉

時事通信社

104-8175 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
購読料金 税抜月額4,100円  
本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。  
©時事通信社2018  
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

連載	2
点検 17年度介護保険法等改正⑦・完	
総報酬割の内容と効果・影響	
トピックス	9
オブジーボ、30万円割れか	
先発薬の例外はあるが	
中央省庁ニュース	10
ジビエ、利用拡大に弾み＝移動処理車普及	
及ヘガイドライン/ホームレス見回りに	
保健師＝早期治療促進へ/働き方改革	
で無線LANなど＝リモートアクセス環境	
を整備/年金未納7カ月で強制徴収＝18	
年度から対象拡大	
建言(高知県公営企業局長)	11
地域を支える	12
ニュース	13, 14
・受動喫煙対策で厚労省修正案	
・特養入所枠確保、実態把握へ	
私たちの工夫	15
社説拝見 1月前期	16
ニュースフラッシュ	18
子育て世帯に住宅提供/ふるさと納税で	
子どもに食品/1～2歳児受け入れに補助	
/訪問介護に「駐車場シェア」/医療型	
短期入所にコーディネーター/加熱式も	
路上喫煙禁止/ゼロエネ住宅に補助金/	
無線LANで働き方改革 ほか	

## 目覚めた公務員

(A)

「私も地元の自治会の役員をやってみて、地域の助け合いの心というか、互助の本質というか、それがハートでわかりました。私なりに自分は優秀な公務員だと信じて今までやってきましたが、それは人の生き方の基本とはまったく違うということに気付いて、ガクゼンとしました。これまでは非営利の活動を、非効率で素人的な活動だと何となく見下していたことを、とても悔やんでいます」

(B)

ある県庁の幹部である50代前半の男性がしみじみと語った言葉である。

(C)

見守りやらちよつとした日常の助け合いやら、かなり積極的な互助・共生の活動をやっている自治会に誘い込まれ、真面目な性格から真剣に取り

公益財団法人さわか福祉  
財団会長・弁護士・堀田 力

組むうちに目覚めたのである。

彼が気付いた公務員の職務と地域の助け合い活動との違いを整理すると、次のようになる。

①公務は(実は企業活動も同じであるが)、効率(生産性)を最大の価値とするが、助け合いは、心が温まる人間関係ができればそれでよい。

②公務は、より効率の良い活動を行うためにPDCAサイクルを要求されるが、助け合いは心(精神的満足)を主たる目的とする活動だから、基本的に数字の目標や評価にはなじまない。

③公務は、より効率の良い活動を行うためにピラミッド型組織で業務を遂行するが、助け合いはそれぞれ個人の志で活動するから、上命下服、指

(D)

揮監督にはなじみにくく、活動を仕切ってはならない。やらされ感は助け合いの敵である。体験から来るそれらの発見に基づいて、彼は次のような提言をする。

①共生の時代を迎えた日本の公務員は、地域住民の心と生き方を理解するために(それは本人とその家族の幸せな生き方のためでもある)、在職中から地域の何らかの社会貢献活動に参加し、共生の生き方を体験すべきである。

(E)

②それがかなわなくても、寄付によってそういう活動を支援すべきである。それらは私もかねて主張しているところであるが、自ら助け合いを体験してないと住民に互助の活動を勧める言葉に説得力が生まれにくい。共生社会を進める公益法人など諸団体に勤める有給の役員も、同じである。